



TAKAMIYA

株式会社タカミヤ 個人投資家サミット

2025年12月20日（土）

株式会社タカミヤ

大阪本社：〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 タワーB27階

東京本社：〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング12階

登壇者



安田 秀樹（やすだ ひでき）

取締役 常務執行役員 経営戦略本部長 兼 Takamiya Lab. 本部長

- 1990年 3月 : 入社
- 2008年 4月 : 執行役員 経理部長
- 2010年 2月 : 執行役員 経営企画室長
- 2011年 6月 : 取締役（現任）
- 2015年 6月 : 常務執行役員 経営企画室長
- 2017年 4月 : 常務執行役員 経営管理本部長
- 2021年 4月 : 常務執行役員 経営戦略本部長（現任）
- 2022年 4月 : Takamiya Lab. 副本部長
- 2022年 9月 : 海外事業本部長
- 2025年 4月 : Takamiya Lab. 本部長（現任）

会社概要



TAKAMIYA

会社名 株式会社タカミヤ

設立年月日 1969年6月21日

代表者 代表取締役会長兼社長 高宮 一雅

本社所在地 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 タワーB27階
東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング12階

資本金 10億5,214万円

従業員数 連結：1,395名 単体：775名（2025年9月末時点）

上場取引場 東京証券取引所プライム市場

証券コード 2445

連結子会社 国内：8社 海外3社

事業紹介

Takamiya Platform  DX

Permanent Partner Relationship, realized with Digital Transformation

建設業界の課題を解決する
ソリューションプロバイダー

沿革

時代ごとに顕在化する建設業界の課題をいち早くキャッチし、ソリューションを提供

1969	創業 工事現場で利用される丸太などの木材の販売
1970	限りある資源を有効活用 仮設機材レンタルへビジネスモデル転換
2010	仮設機材に付加価値を ホリー(株)をM&Aし、レンタル会社兼メーカーへ
2013	半世紀変化しなかつた足場に変革を 次世代足場「Iqシステム」開発
2023	アナログな業界の生産性を改善 Webオーダーシステム「OPERA」開発
2024	事業ポートフォリオを転換 「Takamiya Platform」構想



業績ハイライト

創業以来右肩上がりに業績は推移、コロナ禍の影響で一時的に業績は悪化したが、以降業績は堅調に推移



仮設機材レンタル事業

建築から土木、地下から超高層の工事に対応できる足場や支保工などの仮設機材を全国に供給

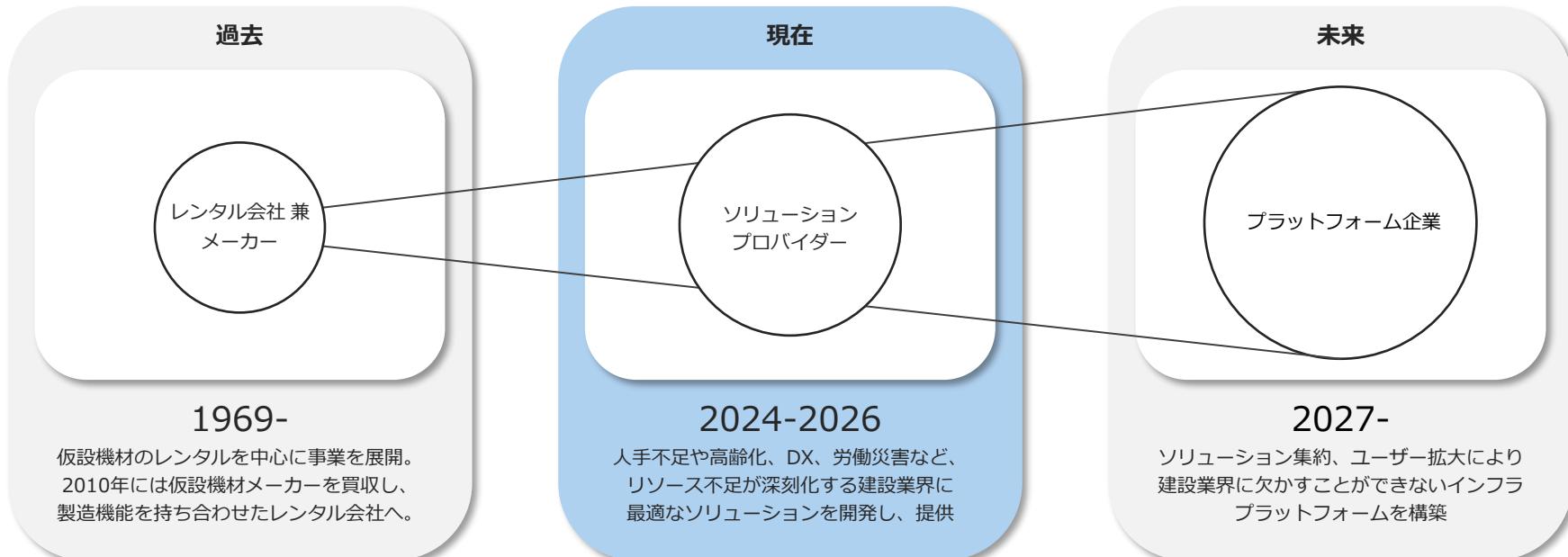


機材Base（仮設機材管理物流拠点）
29か所（新設工事中2か所）



事業ポートフォリオの変遷

仮設機材レンタル会社から建設業界の課題を解決するソリューションを開発し、業界に欠かすことのできないプラットフォーム企業へ



事業環境

1.現在

2026年度は建設投資額が80兆円を超え、
安定した工事量が見込まれる

2.課題

- ① 人材不足
- ② 労働者の高齢化
- ③ 労働生産性
- ④ 労働災害

3.ソリューション

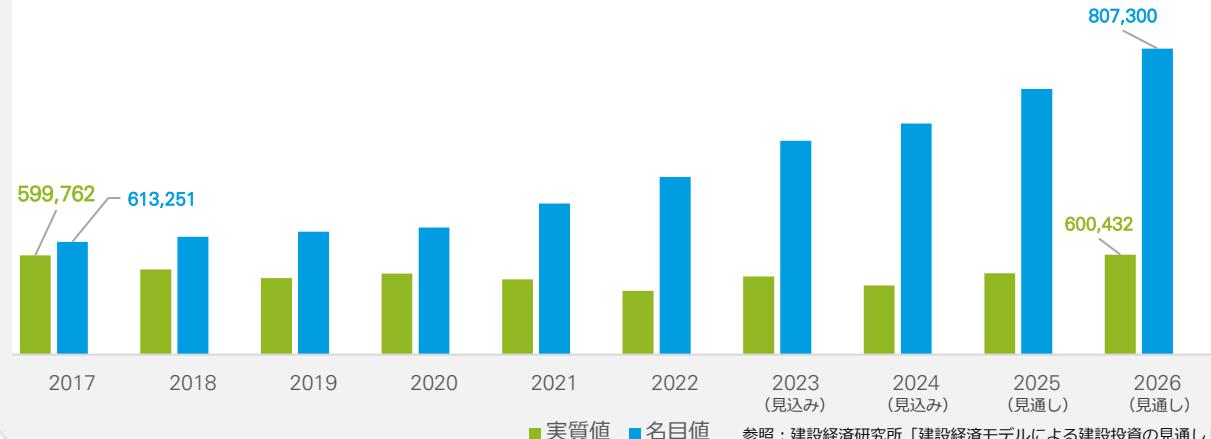
- ・ハード
施工性・作業性・安全性に優れた
業界課題解決に寄与する仮設機材
- ・ソフト
DXによる高収益化・省人化・安全性の
高い業界課題解決に寄与するサービス

4.実現

停滞のない仮設機材の供給による
社会インフラの維持

建設投資は名目値・実質値がともに増加、安定した工事量が見込まれる

建設投資額推移（億円）



■ 実質値 ■ 名目値

参照：建設経済研究所「建設経済モデルによる建設投資の見通し」

事業環境

1.現在

2026年度は建設投資額が80兆円を超え、
安定した工事量が見込まれる

2.課題

- ① 人材不足
- ② 労働者の高齢化
- ③ 労働生産性
- ④ 労働災害

3.ソリューション

- ・ハード
施工性・作業性・安全性に優れた
業界課題解決に寄与する仮設機材
- ・ソフト
DXによる高収益化・省人化・安全性の
高い業界課題解決に寄与するサービス

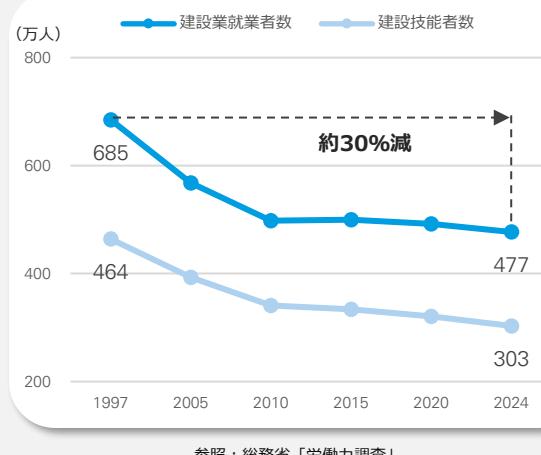
4.実現

停滞のない仮設機材の供給による
社会インフラの維持

2024年問題により、労働者不足が深刻化し、高齢化により更なる加速が見込まれる

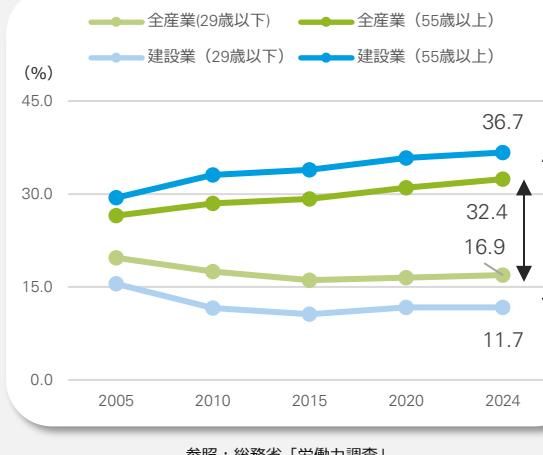
①労働者不足（建設業就業者数の推移）

建設業の就業者数は減少傾向にあり、2024年時点では
ピークである1997年と比較しておよそ30%減少。



②労働者の高齢化（建設業就業者における高齢者の割合）

高齢化が進む中、ノウハウの継承などに課題があり、
DXが進まないと将来的な人材不足が課題に。



事業環境

1.現在

2026年度は建設投資額が80兆円を超え、
安定した工事量が見込まれる

2.課題

- ① 人材不足
- ② 労働者の高齢化
- ③ 労働生産性
- ④ 労働災害

3.ソリューション

- ・ハード
施工性・作業性・安全性に優れた
業界課題解決に寄与する仮設機材
- ・ソフト
DXによる高収益化・省人化・安全性の
高い業界課題解決に寄与するサービス

4.実現

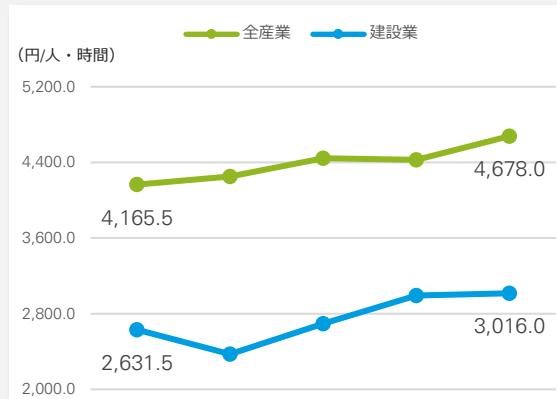
停滞のない仮設機材の供給による
社会インフラの維持

労働集約型の建設業は他の産業と比較して、労働生産性が低く、労働災害の数も多い

③労働生産性（付加価値労働生産性の推移）

実質粗付加価値額(2015年価格)／(就業者数×年間総労働時間数)

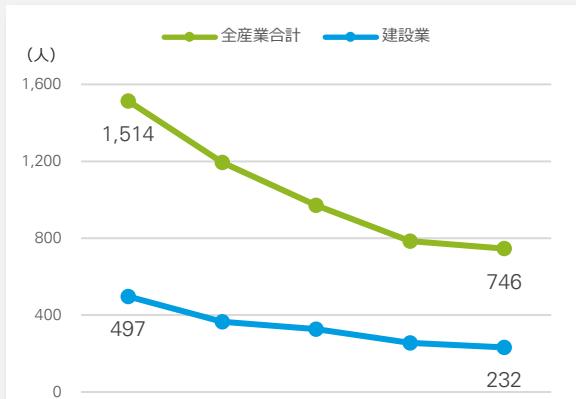
労働集約型であり、DXが進んでいない現状から
建設業界は他の産業と比較して労働生産性が低い。



参照：内閣府「国民経済計算」、総務省「労働力調査」、
厚生労働省「毎月勤労統計調査」

④労働災害（労働災害発生状況の推移）

屋外や高所での作業が多い建設業界は、
労働災害が他の産業に比べて多く、安全性の向上が必須。



参照：厚生労働省「労働災害発生状況」

事業環境

1.現在

2026年度は建設投資額が80兆円を超え、
安定した工事量が見込まれる

2.課題

- ① 人材不足
- ② 労働者の高齢化
- ③ 労働生産性
- ④ 労働災害

3.ソリューション

- ・ハード
施工性・作業性・安全性に優れた
業界課題解決に寄与する仮設機材
- ・ソフト
DXによる高収益化・省人化・安全性の
高い業界課題解決に寄与するサービス

4.実現

停滞のない仮設機材の供給による
社会インフラの維持

付加価値の高いハードとソフトを組み合わせることで、顧客へソリューションを提供

ハード（製品）

施工性・作業性・安全性に優れた業界課題
解決に寄与する仮設機材

ハードとソフトを融合して
ソリューションを開発

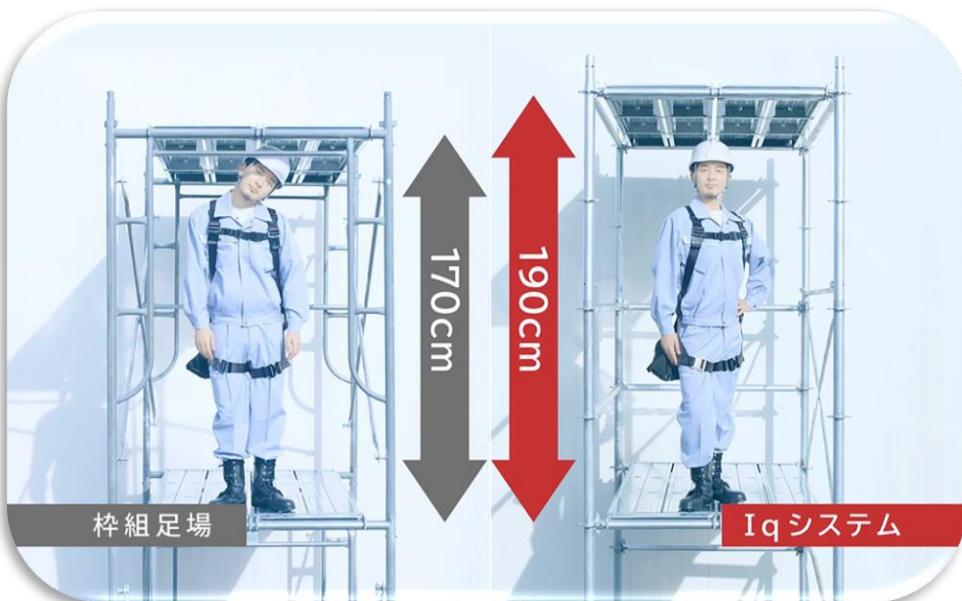
ソフト（サービス）

DXによる高収益化・省人化・安全性の高
い業界課題解決に寄与するサービス

仮設機材を停滞なく提供するとともに、顧客の経営リソースの最適化、事業領域の拡大を実現

Takamiya Solution

ソリューションの中心となる次世代規格の足場、作業スペースを拡大したことで、作業者の負担を低減し、労働生産性を改善



Iq System

タカミヤの次世代規格のシステム足場

作業性の改善

階高 190 cm

従来の足場から階高が20cm高くなったことで、足場上の作業性が向上し、労働生産性が改善。

施工性の改善

枠組足場の場合
10段
 $(170 \times 10 = 1,700)$



IQシステムの場合
9段
 $(190 \times 9 = 1,710)$

従来の足場であれば、組上が10段必要な場合、IQシステムは9段で済むことで、必要な部材数および組上工数の削減により、施工労力を削減。

Takamiya Solution

安全性と施工性、作業性が改善された仮設機材を豊富にラインナップ

Sウォーク / Gウォーク



作業床の隙間を失くし、工具の落下及び躓きによる転倒を防止
安全性が飛躍的に向上したため、労働災害の減少に寄与



YT ロックシステム
安全性・作業性にすぐれた
システム足場

法面工事はもちろん、
建築・土木工事まで。
安全性・施工性を追求した
システム足場。
支保工としても活用可能。



リフトクライマー

自動昇降式足場

建物の側面を自動で昇降するエレベーター式の足場。下層から足場を組み上げる必要がなく、作業効率を大幅に改善。維持修繕工事の際に使用される。



Spider Panel
進化型パネル式吊り棚足場

開閉床採用により、すき間・段差のないフラットな作業床を実現
仮設パネル上で全ての作業が行える、安全性と作業性を向上させたパネル式吊り棚足場。

Takamiya Solution

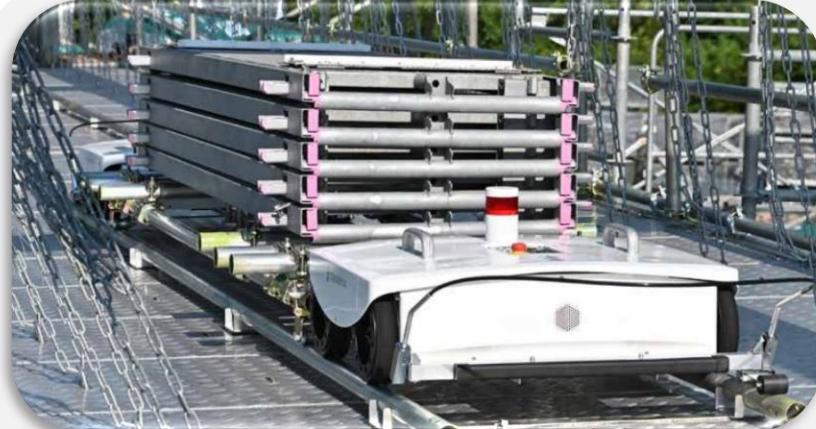
人手不足の建設業界で人手に代わる、運搬ロボットを開発、現場における組み立て作業の効率が大幅に改善



T-Rook

仮設構造物内で仮設機材の運搬を行うロボット

足場を組み上げる際、その作業の7割程を占めるのが、部材の運搬です。
下層から上層へ、階層の端から端へと運搬が必要となる中、運搬における効率化を図ることができます。



TLEVER

仮設構造物内で仮設機材の運搬を行うパイプレール運搬ロボット

足場組立・解体工事の70%を占める機材運搬を効率化。小型軽量ロボ+カスタマイズ可能な台車+パイプレールを用いて、500kgの機材を安全・安価に運搬。軽量・小型で自重の10倍以上の機材運搬可能、労働者の負担を軽減

Takamiya Solution

仮設機材利用フロー

1 設計

仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。
維持修繕工事の際には躯体情報の読み取り等も実施。

2 調達

仮設設計を基に必要となる仮設機材を調達。
顧客ごとに調達方法は様々。

3 運搬

仮設機材を利用する工事現場へ運搬。
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。

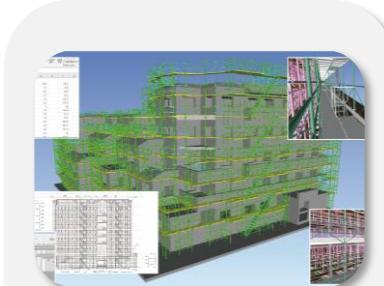
4 管理

仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供、
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。

5 施工

仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施も行う。

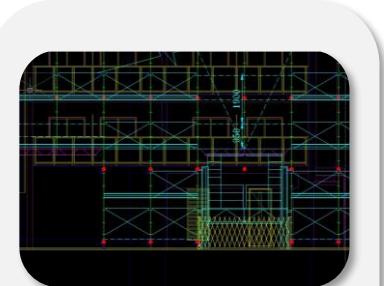
躯体情報の読み取りから、BIM/CIMなど多様なソリューションにより顧客リソースの消耗を低減



BIM・CIM

手戻りによる無駄なコストを削減、 計画通りの工期を実現

仮設工事で重要な「おさまり」「部
材数量」「工程管理」などに関する情報
を3Dモデルや各種データによって可視
化。TAKAMIYA コマンドにより、範囲選
択だけで必要部材の数量を算出。



Rabot
仮設図面自動作成ツール

外注していた作図の内製化を実現

今まで時間がかかっていた平面割付や寸
法などの作図も簡単になり、大幅なスピ
ードアップが可能。専門知識が無くても
、操作方法を覚えることで複雑な作業も
ミスなくクオリティの高い作図が可能。



3Dレーザースキャナ
躯体情報を正確に読み取る

躯体データを正確にスキャン

維持修繕工事の際に必要となる躯体のデ
ータを読み取り可能。従来は膨大な手間
と時間がかかっていた法面なども、スピ
ーイドかつ安全に形状計測することが可
能に。

Takamiya Solution

仮設機材利用フロー

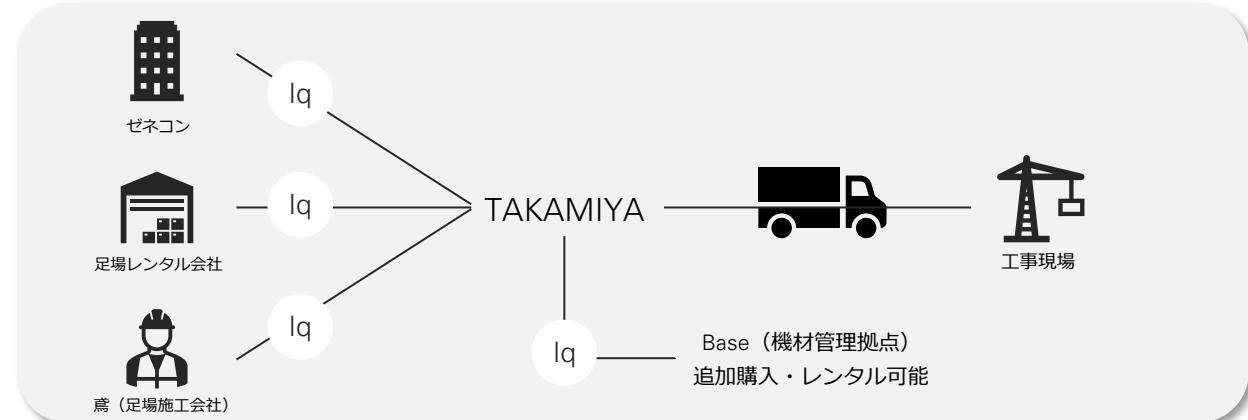
- 1 設計**
仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。
維持修繕工事の際には軸体情報の読み取り等も実施。
- 2 調達**
仮設設計を基に必要となる仮設機材を調達。
顧客ごとに調達方法は様々。
- 3 運搬**
仮設機材を利用する工事現場へ運搬。
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。
- 4 管理**
仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供、
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。
- 5 施工**
仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施も行う。

機材管理リソースの負担を追うことなく、保有を実現し、低コストによる調達が可能に

OPE-MANE

Iq System 管理委託サービス

購入もしくは保有しているIqシステムの管理をタカミヤに委託することができるサービス。当社はBaseで自社保有のIqシステムと顧客保有のIqシステムを混合管理し、それぞれが必要な場所で利用可能。顧客は場所を選択して出荷可能。従来の利用方法であるレンタルおよび購入よりも資金、人材の面でリソース負担を軽減。経年劣化分は当社が新品と入れ替えを行うため、安定して利用を実現。



Takamiya Solution

仮設機材利用フロー

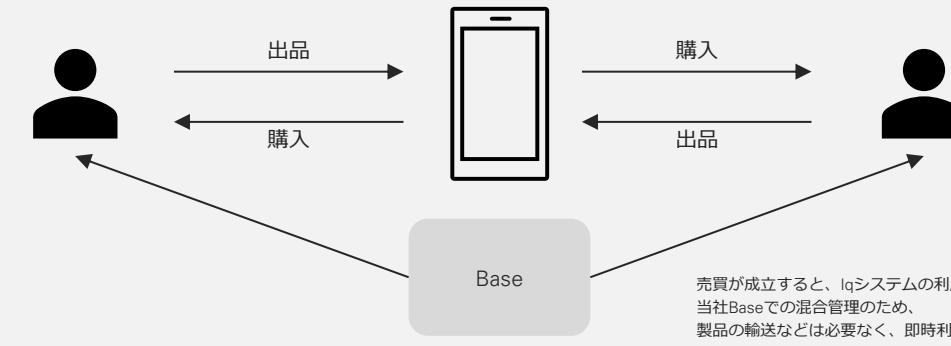
- 1 設計**
仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。
維持修繕工事の際には軸体情報の読み取り等も実施。
- 2 調達**
仮設設計を基に必要となる仮設機材を調達。
顧客ごとに調達方法は様々。
- 3 運搬**
仮設機材を利用する工事現場へ運搬。
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。
- 4 管理**
仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供、
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。
- 5 施工**
仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施も行う。

足場の調達を画面上で用意に行うことができ、柔軟な仮設機材利用を実現

Iq-Bid

Iq System デジタルマーケット

OPE-MANEで運用しているIqシステムをユーザー間で自由に売買することができるデジタルマーケット。徹底した管理と整備に加え、経年劣化分は当社が新品と入れ替えるため、製品の品質は保証。出品価格と購入価格はユーザーが設定可能。余剰分の売却。不足分の購入が容易になり、柔軟な機材調達が可能に。売買成立時の価格が可視化されることでIqシステムの市場価値が可視化。



Takamiya Solution

仮設機材利用フロー

1 設計

仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。
維持修繕工事の際には船体情報の読み取り等も実施。

2 調達

仮設設計を基に必要となる仮設機材を調達。
顧客ごとに調達方法は様々。

3 運搬

仮設機材を利用する工事現場へ運搬。
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。

4 管理

仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供、
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。

5 施工

仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施も行う。

仮設機材の調達による、時間や距離の無駄を削減

Base
仮設機材供給拠点



全国機材供給拠点

全国29カ所に設置された機材Base

全国29カ所の機材Baseから機材の調達が可能。
工事現場に近いBaseから最短距離で輸送でき、
建設需要が高いエリアに増設予定。

最速入出庫

ファストレーン・ミニセンター

事前予約によるファストレーンでの入出庫が可能。使用頻度の高い機材を効率的に配置することで、最大で2時間程度の待機時間を30分程度まで短縮。

運送手配

仮設機材の運搬に特化した物流ネットワーク

工事現場内で、仮設機材の積み下ろしを伴うため、専門性の高いスキルが必要となる中、対応可能な車両とドライバーを手配。

Takamiya Solution

仮設機材利用フロー

1 設計

仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。
維持修繕工事の際には軸体情報の読み取り等も実施。

2 調達

仮設設計を基に必要となる仮設機材を調達。
顧客ごとに調達方法は様々。

3 運搬

仮設機材を利用する工事現場へ運搬。
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。

4 施工

仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施も行う。

5 管理

仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供、
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。

足場組立工事の請負から、鳶専門の求人サイトの運営、法定教育の実施

Tobira

鳶専用求人サイト



足場施工業者の求人を無料掲載できるプラットフォーム。
専用サイトのため、要件が明確となり、認識齟齬も防止。
人手不足を解消に寄与。

全国工事ネットワーク

安全衛生協力会

タカミヤ安全衛生協力会は円滑な足場組立工事と安全活動を
推進し、現場での災害事故を防止。全国各地で足場組立工事
を依頼可能。

安全活動

足場作業の災害・事故ゼロを目指す



座学と実習で、足場に関する基礎知識から安全対策の具体的
な方法を徹底解説。労働安全衛生法第519条の3で義務付け
られている、特別教育の実施を、当社が開催。

Takamiya Solution

仮設機材利用フロー

1 設計

仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。
維持修繕工事の際には船体情報の読み取り等も実施。

2 調達

仮設設計を基に必要となる仮設機材を調達。
顧客ごとに調達方法は様々。

3 運搬

仮設機材を利用する工事現場へ運搬。
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。

4 施工

仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。
組立に必要となる資格獲得に向けた講義の実施も行う。

5 管理

仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供、
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。

データを活用した機材管理により不確実性を撲滅。経年化による強度基準の設定は業界初の取り組み

仮設機材の耐用基準の設定

実大試験機による強度試験



実大試験機で仮設機材の経年品の強度試験を実施。廃棄の基準となる数値の根拠がなかった仮設機材に、業界初となる耐用年数を設定。安全の可視化を通して、お客様に安全な仮設機材を提供するために実証実験を実施。「作って終わり、売って終わり」だった仮設業界を「安全の可視化」をキーワードに業界の慣習を変革し、より安全で信頼性の高い仮設機材の提供を実現し、業界全体の安全基準の向上に貢献。

データによる機材管理

トラックスケールと定点カメラ



仮設機材を入出庫する際に、必要な数と種類を正確に識別するため、トラックスケールによる重量データの蓄積と、定点カメラによる識別を行い、仮設機材提供および返却の正確性を格段に向上。工事現場で数が足りない、提供した分が返却されていないなどのヒューマンエラーを撲滅

Takamiya Solution

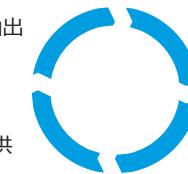
ソリューションをWebオーダーシステムOPERAに集約し、プラットフォームを構築。OPERAがソリューション提供のポータルに。

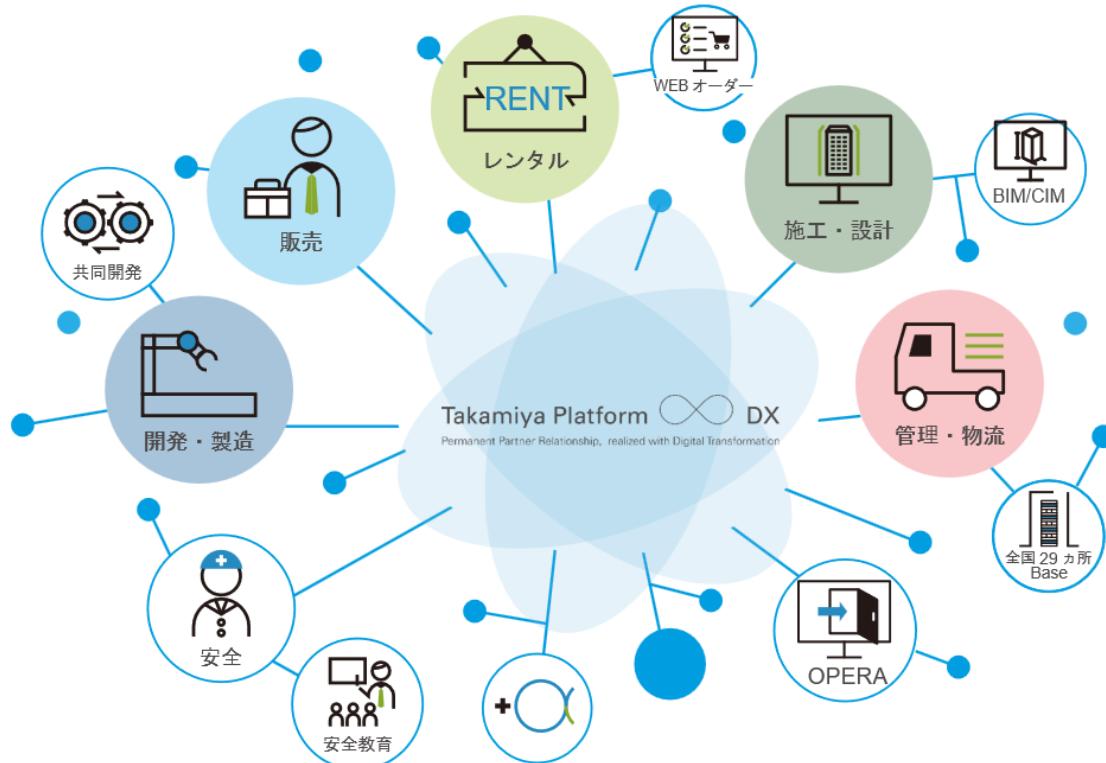


OPERA プラットフォームポータル

業界課題を解決するソリューションをデジタルポータルに集約。スマートフォンやパソコンからソリューションへアクセスすることができ、利用情報をデジタルで一元管理。各ソリューションの連携で利便性が格段に向上。

- ①業界及び顧客課題を抽出
- ②ソリューションを開発
- ③OPERAに搭載
- ④顧客へ提供





Takamiya Lab.

業界課題解決へ向けた、新たなソリューションの試験を行い、実感することができるタカミヤ初の研究開発拠点



Takamiya Lab.

Takamiya SolutionのR&D拠点

製品の開発、サービスの検証など、業界課題を解決するソリューションの研究開発を行う拠点。足場の経年化データを蓄積させ、足場の安全基準を可視化を検証。足場製品とバーチャルを組み合わせた安全教育の実施、入出庫時間の短縮など、研究を実施。

ソリューション研究開発

- ・仮設機材経年化強度試験
- ・足場安全活動
- ・入出庫データ蓄積
- ・AI活用による自動運送手配
- ・製品開発
- ・最速入出庫試験
- ・仮設機材整備自動化試験
- ・積載シミュレーションの自動化試験

TAKAMIYA FAIR



TAKAMIYA FAIR

パートナー企業と推進する建設DX

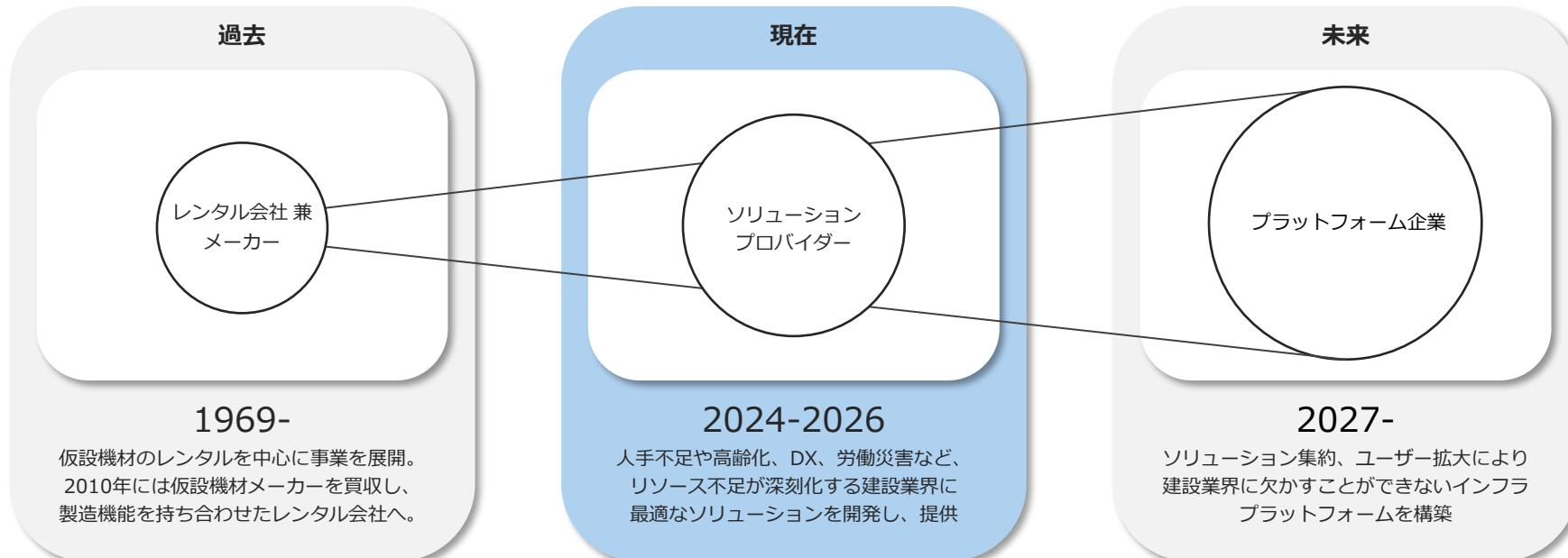
「建設業界のDX推進」という共通の目標を持つパートナー企業7社が集結。

建設現場で実用性の高いDXソリューションを紹介し、実際にその操作性や導入効果を体験いただけるコーナーを多数設置。

特に「DXは難しそう」と感じる現場担当者や責任者の方々が、「これなら使えそう」「現場が変わるものかもしれない」と実感できるリアルな選択肢を提示することで、DX推進を“自分ごと”として捉えるきっかけを提供。

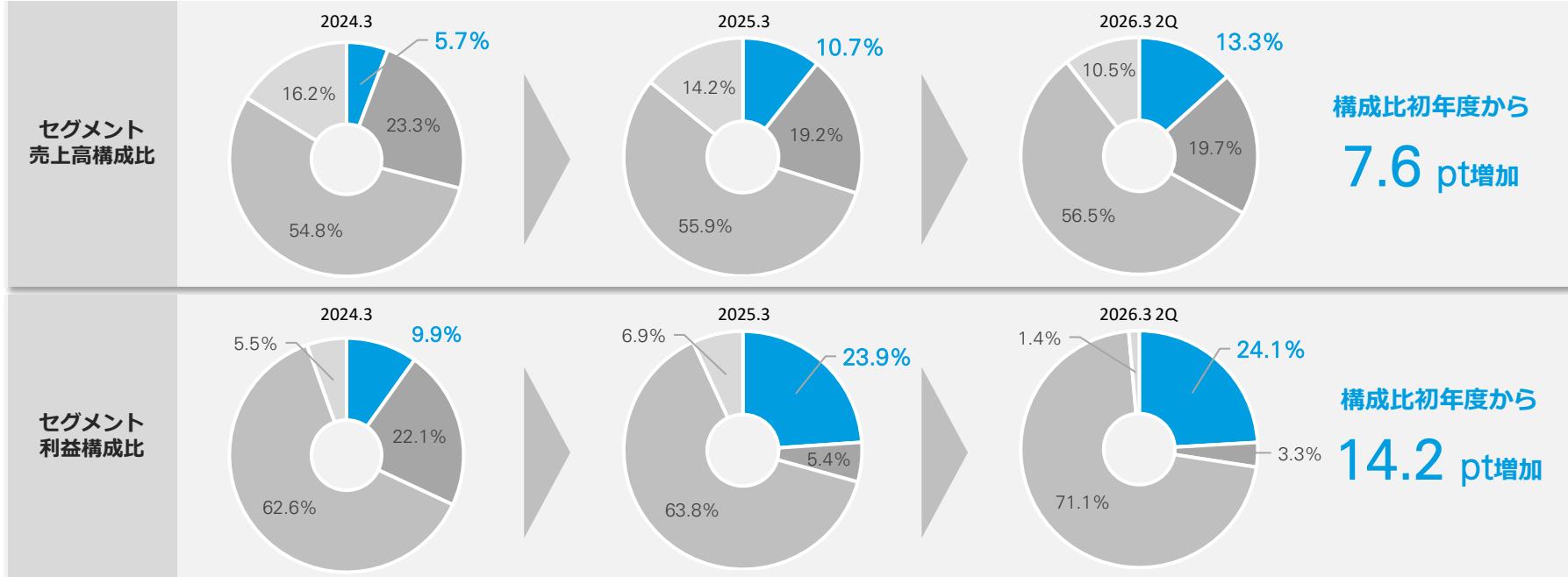
VISION

仮設機材レンタル会社から建設業界の課題を解決するソリューションを開発し、業界に欠かすことのできないプラットフォーム企業へ



事業ポートフォリオの変化

売上高・事業利益共にプラットフォーム事業が大幅に伸長し、ポートフォリオの転換は順調に進行

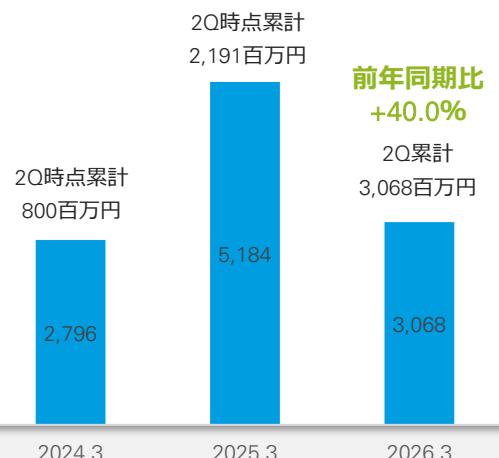


■ プラットフォーム事業 ■ 販売事業 ■ レンタル事業 ■ 海外事業

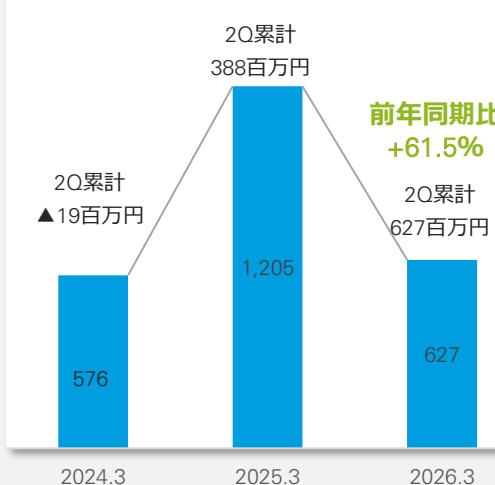
プラットフォーム事業の成長

当社の新たな事業であるプラットフォーム事業は、売上高および営業利益（率）が大幅に伸長

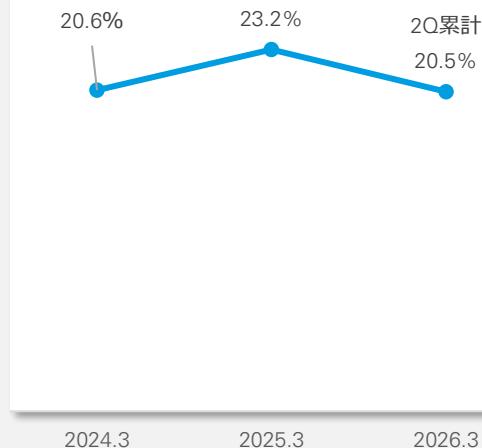
プラットフォーム事業売上高推移



プラットフォーム事業利益推移



プラットフォーム事業利益率

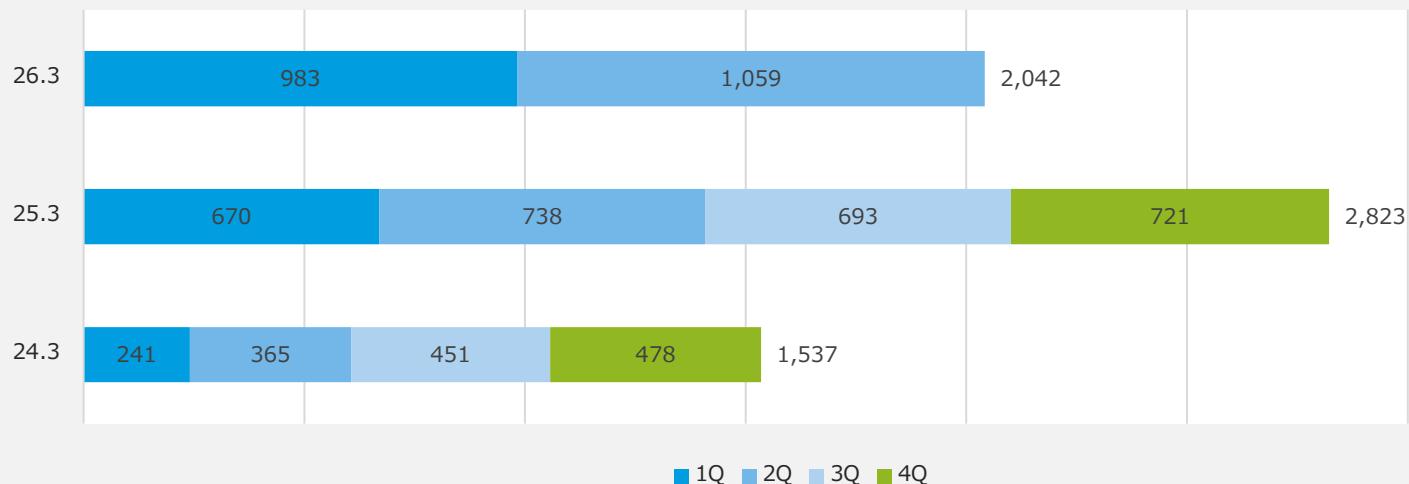


リカーリング収益

OPE-MANEユーザー数および販売契約高の増加に伴いリカーリング収益が着実に増加、販売は期末に増加傾向

リカーリング収益（レンタル関連売上）

OPE-MANEユーザーによる、追加レンタル売上。
固定単価でのサービス提供であり、利益率が高い



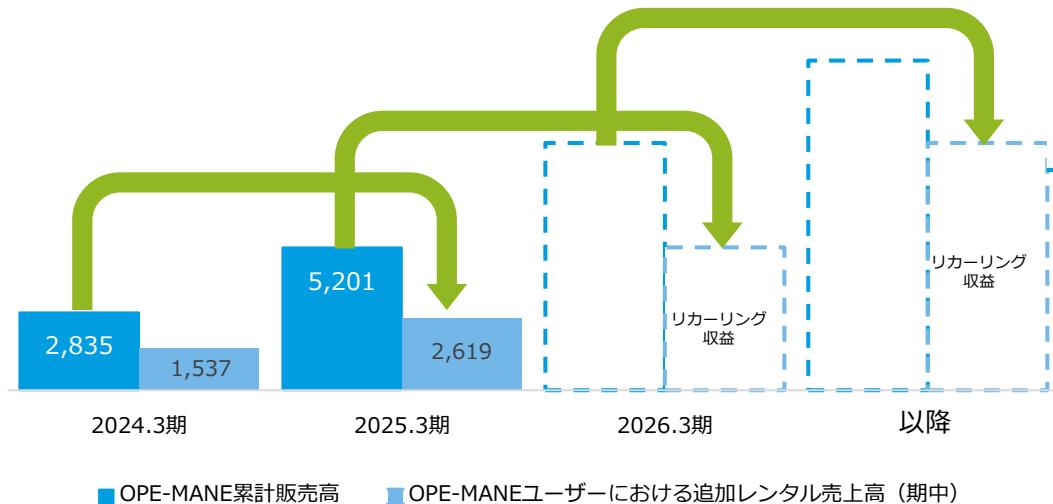
リカーリング収益

OPE-MANE販売契約高推移とOPE-MANEユーザーによるレンタル利用の推移

OPE-MANE販売契約高の増加に伴い、ユーザーによるレンタル収益（リカーリング収益）が増加

翌期には、前期までの累計販売契約高相当のレンタル収益が見込める

OPE-MANE累計販売契約高およびユーザーによるレンタル売上



OPE-MANEによるリカーリング収益の増加

2025年3月期累計販売契約高
実績5,201百万円

2026年3月期には
前年までの累計販売契約高相当の
リカーリング収益が見込める

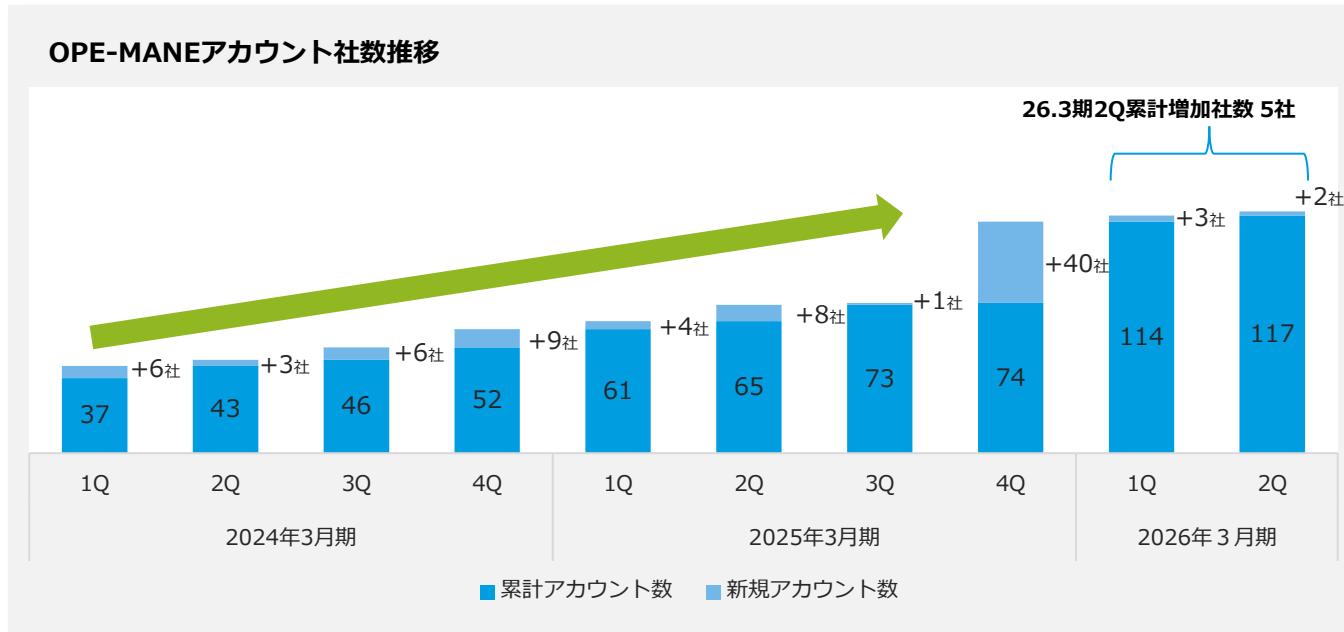
OPE-MANEのユーザー数および、累計の契約高が増加することで、
周辺部材や不足材のレンタル利用が増加。
また、過不足においては、Iq-Bidを利用することで売買による調整が可能に。
→ OPE-MANEユーザーが継続して購入およびレンタルをするため、
リカーリング収益が増加する。

※OPE-MANEで利用するIqシステムは他の仮設機材と互換性がなく、
Iqシステム以外と組み合わせて利用できないため。
また、レンタルは同一拠点からの出荷が可能に。

※単位は百万円

OPE-MANEアカウント数推移

翌年度の工事に備えて、OPE-MANE新規アカウントは期末に増加する傾向がある



株価推移



株主還元

配当政策は累進配当とし、配当性向は35%以上を維持、2026年3月期の配当予想は年間16円

配当予想実績

期末配当金 8円	期末配当金 8円	期末配当金 8円	期末配当金 10円	期末配当金 10円
中間配当金 6円	中間配当金 6円	中間配当金 6円	中間配当金 6円	中間配当金 6円

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 予想
配当金額総額	652百万円	652百万円	652百万円	745百万円	-
配当性向	67.5%	44.6%	34.5%	60.0%	-
自社株買い	0百万円	0百万円	0百万円	362百万円	-
総還元性向	67.5%	44.6%	34.5%	89.9%	-
自己資本配当率 (配当性向×ROE)	3.5%	3.3%	3.1%	3.4%	-
ROE	5.2%	7.6%	9.1%	5.7%	-

Takamiya Platform DX

Permanent Partner Relationship, realized with Digital Transformation